

## 第三者評価結果シート・コピー（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

### ①第三者評価機関名

株式会社福祉サポートセンター

### ②評価調査者研修番号

sk15106

sk15166

地福第2250-62号

### ③施設名等

名称:	豊橋若草育成園
施設長氏名:	山田吉勝
定員:	60名
所在地(都道府県):	愛知県
所在地(市町村以下):	豊橋市高師町北原1番地104
T E L:	0532-62-0010
U R L:	
<b>【施設の概要】</b>	
開設年月日	1965/4/1
経営法人・設置主体(法人名等):	豊橋市福祉事業会
職員数 常勤職員:	28名
職員数 非常勤職員:	3名
専門職員の名称(ア)	保育士
上記専門職員の人数:	8名
専門職員の名称(イ)	栄養士
上記専門職員の人数:	2名
専門職員の名称(ウ)	心理士
上記専門職員の人数:	1名
専門職員の名称(エ)	
上記専門職員の人数:	名
専門職員の名称(オ)	
上記専門職員の人数:	名
専門職員の名称(カ)	
上記専門職員の人数:	名
施設設備の概要(ア)居室数:	40室
施設設備の概要(イ)設備等:	
施設設備の概要(ウ):	
施設設備の概要(エ):	

### ④理念・基本方針

- 地域の中でいきいきと生活するために
- 子どもの最善の利益のために
- 正しく・明るく・たくましく
- 暴力をしない

### ⑤施設の特徴的な取組

- 社会的養護推進計画に基づき、本年度から小規模グループケア開始。
- 子どもが安心して生活が送れるよう、年齢によって男女別ホームで支援する。暴力及び不適切対応防止の徹底を図る。
- 地震防災のため施設設備の保全管理を徹底するとともに、防犯安全や感染症対策等保健衛生面にも万全を期し、安全快適な環境整備を進める。
- 守秘義務等情報管理を徹底するとともに、円滑な業務運営を行うため利用者管理システムを活用し、個別支援体制の強化及び情報の共有化や効率化を図る。

### ⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間(ア)契約日(開始日)	2016/6/1
評価実施期間(イ)評価結果確定日	2017/3/23
受審回数	2回
前回の受審時期	平成 25 年度

### ⑦総評

#### 評価が高い点

- ・法人として規程や要綱が適切に整備されており、施設としても防災関係や感染症への対応マニュアルなどが整い、有事に備えた対策がとられている。
- ・年2回、卒園生を施設に招き、在園児や職員との交流の機会を設けている。施設としては、卒園生の状況確認やアフターケアの機会であり、在園児にとっては将来に向けて社会人としての心構えや体験談を、先輩から直接聞く良い機会となっている。
- ・職員は自分を振り返る機会として、毎月独自のシートを使ったセルフチェックを実施している。また、施設内の虐待防止委員会が各職員のセルフチェックの状況を把握し、必要に応じて施設長との面談の機会を設けている。
- ・ハード面の整備により小規模グループケア体制となり、より家庭的な環境の中で子どもへの支援が行われている。子どもたちは、個室となったことで、プライバシーが確保され、「自由」の幅が広がり、「個人」がより尊重された環境にある。自主性を重視した支援体制により、職員の見守りの中で安心感のある生活が営まれている。
- ・様々な人との触れ合いの場が用意され、その経験を通して子どもたちが「思いやり」や「他人を尊重する」ことの大切さを学べる機会となっている。

#### 「改善を求める点」

- ・毎月2回子どもと担当職員の話し合いの機会が設定されているが、月2回と限定することで子どもたちの声をタイミングよく聞けるとは思えない。また、評価機関による子どもたちへのアンケート調査からは、「本音と言えない」「職員へ相談しにくい」などの声も上がっている。まずは、「いつでも子どもたちの声を聴く姿勢にある」ことを職員と子どもたちに周知させることが必要。併せて、法人には、同じ敷地内に様々な施設があり、他施設の職員に協力を仰ぐことで、直接には言いにくいことの聞き取りや、第三者による子ども達の声を聴く機会の創設も検討されたい。
- ・小規模グループケアを始めたことにより、今まで以上に職員の孤立感が増し、子どもたちを多角的視点で捉え難く、偏向的になりやすいという課題がある。今後は、職員間の情報の共有化や統一した対応の徹底、職員のスキル向上などの課題とあわせ、職員の連携強化に向けた取り組み等を望む。そのためには、施設長がリーダーシップを発揮され、施設として目指す方向を明確にするための取り組みに期待したい。
- ・小規模グループケアに即した施設独自の虐待防止マニュアルを策定され、職員の権利擁護に関する徹底した体制づくりを望む。
- ・あらゆる機会を通して、子どもの意見の反映や意思の疎通に配慮し、子どもが「大切にされている」と実感できる支援体制や一層の信頼関係の構築に期待する。

### ⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回の評価結果について、自信とする項目と改善すべき項目について我々が目指し向かうべき方向を指し示していただけたと思います。現状に留まることなく「子どもたちの最善の利益」を推進すべく、全職員が同じ認識、同じ方向を向いて子どもたちの支援にあたってまいります。

### 第三者評価結果（児童養護施設）

#### 共通評価基準（45項目）I 養育・支援の基本方針と組織

##### 1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	
【コメント】		
理念や基本方針等は、ホームページやパンフレット、入園のしおりなどに明記されている。また、年度末の年度計画作成時や4月当初の職員会議等において説明されているが、理念や基本方針を踏まえた具体的な取り組み内容について、職員間の共通した認識や統一された判断基準による支援行動が行える取り組みに期待したい。また、支援の方針や理念の実践に向けた職員の姿勢を示す事業計画を、それぞれの事情に配慮して子どもや保護者へ周知するための方法に、改善や工夫を望む。		

1

##### 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○
【コメント】		
事業所を取り巻く個別化や小規模化の流れに対して、それに即した小規模ユニットの建設（定員30名）が行われている。小規模化への取り組みにおける長所と、職員の分散や少人数化にみられる配慮すべき留意点を具体的に整理され、職員への配慮や子どもへの影響を分析し、より良い成果の実現を期待する。		

2

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	

3

## 【コメント】

男女別のユニット構成に加え、職員の配置が男女の同性養護体制がとられている。この体制に、職員にも賛否の意見が見られるので、体制の是非ではなく、その体制をとることの意義、配慮すべき課題等を十分職員間で意思統一して、子どもの養育により良く反映される取り組みに期待したい。

## 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	

4

## 【コメント】

建物等のハード面の整備は、中・長期的なビジョンが整備されている。防災計画や、衣食住等の多くの計画内容については、蓄積されたノウハウを基に、事業所として適切な取り組みがされている。ただ、職員の事業所における平均在籍年数が4年半ほどとなり、事業所として養育の連続性に配慮した人材の育成・確保に努められたい。また、事業所の在籍児童の年齢構成(低年齢層の割合が高い)に配慮され、入所理由等を勘案し、思春期や反抗期等の子どもの特性にも配慮した、ソフト面での中・長期計画作成に期待したい。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

5

## 【コメント】

退所児童への支援をはじめ、保健衛生、関係機関との連携、防災等具体的な計画が策定されている。子どもの権利擁護については、権利ノートの説明や人権等について繰り返し子どもたちに伝える取り組みや、抽象的な表現となっている自立支援指針を具体的な行動、取り組みとして表記されることを期待したい。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等が)されており、理解を促すための取組を行っている。	

6

【コメント】

事業計画は主任や現場職員が検討し、管理職が総括する体制により作成されている。養育の支援計画や内容の一部に、抽象的な表現となっている項目もあるので、より具体的な事業計画の作成と職員に周知する取り組みに期待する。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

7

【コメント】

入所事由等環境的な面での困難さはあるが、子どもや保護者等への事業計画の周知や説明は行われていない。保護者や児童の全部が説明できない状況ではないので、機会の創設や説明の工夫等の改善に期待する。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

第三者  
評価結果

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

8

【コメント】

事業所として目指す養育・支援について、子ども達の状況(年齢、性別、入所事情等)や職員の状況(知識、経験等)を勘案し、共通の認識や方向性のもとでの取り組みに期待する。リスクを恐れると規則や禁止事項が多くなり、信頼関係や受容できる人間関係の構築がおろそかになるので、子ども目線に配慮した穏やかな安心できる養育体制の構築を望む。

②	9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

9

## 【コメント】

定期的に第三者評価を受審し、それを基に改善に取り組んでいる。小規模ユニット化への移行で、職員、子どもたちともにまだ慣れない、落ち着いた一面が見られるので、現状の分析や評価、今後の取り組むべき課題を整理され、養育の連続性に配慮した、ユニット化の利点を活かせる取り組みに期待したい。

## II 施設の運営管理

## 1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

10

## 【コメント】

法人として人事考課制度が整備され、職員の果たすべき役割や責任が明確にされている。施設長の事業所での役割も明記され、職員に周知されている。今後は、保護者や子どもたちや外部に対しても伝えられる工夫や取り組みに期待したい。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	

11

## 【コメント】

施設長は、職員を各種の研修会に派遣するとともに、自らも研修、関係機関との連携や行政説明等に参加している。ただ、自己評価の内容や職員へのアンケートからは、価値観の共有が不徹底な様子や職員間で目指す方向性に相違が見られるので、研修等の内容や成果を職員の共通の理解とできるような掘り下げや、理解した内容を確認する機会を設ける取り組みに期待したい。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	

12

【コメント】

職員の養護に対する意識は高く、意欲や姿勢は前向きに感じられたので、養育の具体的な手段や方法等について職員間で十分検討され、同性養護の意義や意図、問題点の認識等を共有し、役割は違っても、共通して理念や基本方針の実現に向かえる体制の構築に期待する。

②	13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	

13

【コメント】

法人として経営強化計画を策定し、経営基盤の強化を目指す取り組みが始められている。各事業所での経営コストの見直しや事務業務の統合による効率化等が図られ、事業所別の発注から、合同入札によるコスト削減などの取り組みが行われている。管理者として、法人のこうした方針の狙いや目的を事業所内に周知し、経営資源を養育の現場に活用できるよう、事業所内の体制の構築への積極的な取り組みに期待したい。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

第三者  
評価結果

①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人人体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人人体制について具体的な計画がある。	
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人人体制の充実に努めている。	○

14

【コメント】

法人としての総合的な人事管理体制もあるが、事業所として必要な人材の育成や確保する仕組みを構築するため、事業所の現状を踏まえた望ましい人材は何かを分析・把握する取り組みに期待する。意見の相違は議論したり検討する過程でより良い方向性が導き出せることが多く、年齢の幅の広い児童養護の施設で、平均勤続年数が4年程では、養育の継続性の上からも好ましくなく、改善に期待したい。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	
	<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができています。	

15

## 【コメント】

法人として人事考課制度の策定により、役割や責任等の基準が明示されている。事業の種類による職員処遇の制度格差があり、施設としての職員処遇の均衡が図りづらい面もみられるが、職員が前向きに業務に取り組める体制の整備や仕組みづくりに期待したい。

## (2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

16

## 【コメント】

小規模施設への移行の影響もあり、職員へのアンケートには、休暇の取得促進や時間外業務減少への改善希望が出ている。年齢層の幅のある事業だけに、養育に関わる職員には多種多様な資質も求められる中、一定以上の勤続年数の職員が必要とされる事業の特性を踏まえて、法人内の経験者や他事業所への異動した人材の活用も視野に入れた取り組みに期待したい。

## (3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

17

## 【コメント】

人事考課制度が整備され、管理者との面談を通して研修や目標設定等の取り組み体制が整備されている。法人として、事業所別の特徴を踏まえた目標設定等に取り組み、養育や支援の一層の充実に期待したい。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

18

## 【コメント】

法人としての研修体制が整備されているので、事業所別の特徴を踏まえた研修内容の充実を図ることで、一層の成果を期待したい。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を奨励している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○

19

## 【コメント】

職員は管理者との面談を通して、自己の目標設定に応じた研修等の受講が認められている。自己の希望と法人の意向が異なる場合もあるが、職員の向上心等に応えられる研修体制が整備されている。

## (4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

20

## 【コメント】

実習生の担当者が決められ、受け入れ要綱や手引きが用意されているが、保育士等、すべての専門職に配慮したプログラムまでは用意できていない。今後は、現状の養育等の支援の見直しや改善につながる気づきを得る機会とできるので、少しずつ専門性を意識した育成や教育のプログラムの拡充整備に期待する。

### 3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果	
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。 <input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。 <input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。 <input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。 <input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。 <input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	a	21
【コメント】 ホームページには法人、施設の理念や基本方針、施設の様子等公開されている。第三者評価も定期的を受審されており、その結果についても公表されている。広報紙や新聞等も定期的が発行し、事業内容が周知されている。		
② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。 <input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。 <input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。 <input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。 <input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。 <input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。 <input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	a	22
【コメント】 法人としてホームページやパンフレット、広報紙等により情報が公表されており、職員の役割や責任体制等も明示されている。公認会計士による外部監査も実施され、内部の監査体制も整備されている。		

### 4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果	
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。 <input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。 <input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。 <input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。 <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	a	23
【コメント】 職員は子供会の役員を引き受けたり、子どもたちも地域の行事に積極的に参加している。地域のクラブチームに所属する児童もおり、買い物等の日常的な関わりに加え、地域との自然なつながりが構築できている。		

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	24
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○	
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	○	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している	○	
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。	○	

【コメント】

ボランティアの受入れについては担当者を決めて事前説明等を行うなど、基本姿勢が明確にされている。今後は、ボランティアへの研修の企画や育成、支援プログラムの作成等の取り組みに期待する。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	25
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○	
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○	

【コメント】

子どもの通う学校や児童相談センター等と定期的な懇談や連絡会が開催され、情報の共有や支援体制が整備されている。高校生には、アルバイト先の確保等を含め、社会資源の活用が図られている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 施設が有する機能を地域に還元している。	b	26
	<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。		
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。	○	

【コメント】

災害発生時の避難所としての役割が、職員や地域に周知され、備蓄品等が準備されている。施設機能の地域への還元は、地域交流室等の設備的な開放だけでなく、核家族等養育技術の伝承が希薄となった現状から、養育の方法や問題事例への対応の仕方等の養護技術を伝えるセミナーや教室、相談会の開催等、専門性を活かすプログラムの開発など、ソフト面を還元する取り組みに期待したい。

②	27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	

27

## 【コメント】

一時保護の事例や短期養育困難事例によるショートステイの事業は行われているが、利用は少ない。周知の不足か、ニーズが少ないのかの分析や状況把握に加え、将来を見据えた具体的な取り組みの策定に期待する。

## III 適切な養育・支援の実施

## 1 子ども本位の養育・支援

## (1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

第三者  
評価結果

①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	

28

## 【コメント】

入園のしおりに事業所の支援方針が明記され、説明がされている。しおりの表現に、「集団生活になじまないものについては、ご遠慮ください。」の記述があるが、子どもへのアンケートからは、私物の持ち込み規制（特にゲーム等）への制限緩和を望む意見があり、事業所の考える「集団生活になじまないもの」についての基準やその理由等をわかりやすく伝える、年齢等に配慮した説明やルールづくり等の取り組みに期待する。

②	29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	b	29
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。	○	
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。	○	

【コメント】

法人として、個人情報保護のための規程整備や研修等の取り組みが行われている。事業所としてもプライバシーの保護等に配慮しているが、権利ノートを知らない（当初のみの説明と思われる）と答えた児童が多く、お互いが子どもの権利について確認する、職員への周知や振り返る機会とされる取り組みを望む。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a	30
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○	

【コメント】

入所時には、基本理念や支援内容について「入園のしおり」やパンフレットを用いて説明し、施設を案内して実際の生活の様子を見てもらうとともに、体験入所を実施している。ホームページを定期的に更新し、施設の情報を提供している。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a	31
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	○	
	<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○	
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○	

【コメント】

ファミリーソーシャルワーカーと主任とが施設の内容や様子について説明している。養育・支援の開始当初には、子どもや保護者に対して必要な情報を積極的に提供している。意思決定が難しい子どもへは、「入園のしおり」等を用いて分かりやすく説明するように配慮することをルール化している。その折には、好きな食べ物や学科、日常生活状況などを聞き取り、入所後の穏やかな養育・支援につなげている。

③	32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

32

## 【コメント】

高校卒業後の希望や意向を聞き、相談に応じている。退所後の相談窓口については、連絡先と利用方法を記載した「退所支援記録」をもとに家庭支援相談員が中心となりアフターケアを行っているが、退所支援の仕組みを十分に利用できていない。養育・支援の継続内容やサポート等について文書化し、明確に子どもや保護者等に伝えられることを期待する。

## (3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者  
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	

33

## 【コメント】

日常の子どもとの関わりの中で子どもの思いや意向の把握に努めており、日常の不満を多く聞き取るようにして子どもが安心して生活できるよう取り組んでいる。個別面談や「部会・自治会」は定期的に行われているが、内容を振り返る、見直す等の検討会議は行われておらず、具体的な改善もなされていない。また、定期的な満足度調査等の取り組みも行われていない。今後は、子どもの意向を把握した上で分析する仕組みを作り、養育・支援の改善に活用して、子どもの満足の向上を図っていくことが望まれる。

## (4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

34

## 【コメント】

苦情に対しての対応や記録は適切に行われており、職員間で共有し、養育・支援に反映するように努めている。保護者や子どもには、入所時に苦情解決の仕組みについて説明しているが、利用には至っていない。苦情解決の制度や取り組みの周知が不十分で、子ども達の不満や意見、要望等についても、結果のフィードバック及び公表が十分ではないので、改善に向けての取り組みに期待する。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

35

## 【コメント】

子どもが安心して相談できる面談スペースや環境は確保されており、担当以外の職員に相談している場合もある。言葉で伝えることが難しい場合は、子どもの表情や態度から受け止めたり、就寝時や入浴時など個別になる時を利用して、話す機会を設けるようにしている。「子どもの権利ノート」の周知があまり無いので、定期的に繰り返し伝えていく配慮が必要かと思う。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

36

## 【コメント】

子ども主体の自治活動、園長への手紙等子どもからの相談や意見は、聞き取りやすい環境を作っているが、相談や意見を受けたことの記録の方法や報告の手順、マニュアル等が整備されていない。子どもへのアンケートには、相談がしにくいとの意見もあり、事業所としての改善や工夫に期待したい。

## (5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者  
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	c
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	

37

## 【コメント】

子どもの日常生活における危機管理や事故等の情報の共有は図られているが、事故発生時の対応と安全確保についてのマニュアルが整備されていない。また、ヒヤリハット報告の回覧はされているが、検討会議は行われていない。今後は、情報の共有のみにとどまらず、事例の収集と分析、改善策等の仕組みを作成されることを望む。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	○

38

## 【コメント】

感染症に関するマニュアルを基に、予防対策や発生時の適切な対応を行っている。毎月全体会議の後に行われる「保健給食委員会」において、マニュアルの見直しや勉強会を行い、子どもの安全確保に向けての取り組みが行われている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	○

39

## 【コメント】

火災・地震発生時の対応や避難等についてのマニュアルが整備されており、計画に沿って毎月訓練を実施している。訓練では実際に避難場所まで移動したり、消火器の使い方なども確認している。備蓄倉庫には、災害用備蓄品も準備されており、安否確認の方法も子どもや職員に伝えられている。法人として地域の受入避難所に指定されていて、地元の行政との連携体制も確立されている。

## 2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	<p>40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。</p> <p><input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>事業所の指針の資料には、標準的な養育・支援の実施方法が文書化されていることが確認できた。また、その中には、子どもを尊重する姿勢やプライバシー保護、権利擁護にかかわる姿勢も示されている。今後は、指針に基づいて実施されているかどうかを確認する仕組みを整備し、養育・支援の更なる向上に取り組むことが望まれる。</p>		
②	<p>41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。</p>	<p>c</p>
<p>【コメント】</p> <p>職員は、標準的な養育・支援の実施方法に基づいた支援が行われているかについて、各ホームごとに振り返りや話し合いを行っているが、事業所としての対応を決定する仕組みとしては位置づけられていない。今後、職員や子どもの意見等が活かされるような仕組みを作り、事業所として定期的に検証・見直しを実施することが必要と思う。</p>		

40

41

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

42

【コメント】

自立支援計画策定の手順が定められ、担当の職員が子どもの心身の状況、ホームや学校での生活の様子などについてアセスメントを行い、関係職員が話し合うとともに、子どもの意向を反映して支援計画書を作成している。子どもの意向の把握は行っているが、十分に同意を得ているとは言えないので、今後の対応が望まれる。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	

43

【コメント】

自立支援計画の評価・見直しは、6ヶ月ごとに話し合いをした上で変更等を行い、その内容を職員は周知している。しかし、見直しについての時期や手順などは明文化されておらず、随時の見直し等の仕組みも整備されていないので、今後の取り組みに期待したい。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

44

【コメント】

日々の支援状況については業務日誌を活用し、各職員が内容を把握している。子どもの様子については、業務日誌の他に朝の申し送り等で共有している。養育・支援の実施状況の記録の書式の見直しについて、職員から指摘があり検討中であるため、新しい様式の活用に期待したい。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	

45

【コメント】

個人情報保護規定に基づいて、記録の保管、破棄、情報の提供等が適切に行われている。個人情報保護についての研修や子どもや保護者への説明が十分ではないので、方法等の改善、工夫に今後の取り組みが期待される。

内容評価基準（41項目）A-1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		第三者 評価結果	
① A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。		b	A1
	□養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。	○	
	□子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。	○	
	□職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。		
	□受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。		
【コメント】			
職員は積極的に実践すべき行動指針として「子どもの利益を最優先に養育・支援に当たる」ことを理解し、日々の支援に努めているが、子どもにとって最善の利益になっているか、子どもとの個別の時間を大切にして、信頼関係を構築することを期待する。			
② A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。		b	A2
	□子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○	
	□事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○	
	□伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○	
	□事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。		
【コメント】			
子どもの出生や生い立ち、家族の状況についての説明は、児童相談所と連携して子どもの発達段階や状況を見ながら適切に対応している。子どもの負担を軽減するよう心がけるとともに、職員がいつも見守り支えていることを伝え、心理的に不安定になった場合は心理士と連携してフォローに努められることを望む。			
(2) 権利についての説明			
① A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。		b	A3
	□定期的に全体の場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。	○	
	□権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。		
	□年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)	○	
	□定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。		
□子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○		
【コメント】			
職員は子どもたちに対して、日常生活の中で自分の権利や他人の権利を尊重すること等について、機会あるごとに説明し、理解を深めるよう努めている。「権利ノート」が十分に浸透、活用されていないので、生活の中での権利や義務の活かし方などを具体的に子どもに説明する機会を望む。			

(3) 他者の尊重

①	A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	b	A4
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別にふれあう時間を確保している。	○	
	<input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するように支援している。	○	

【コメント】

職員は日常生活の中で子どもとの個別の時間を大切にしており、就寝時や入浴時等個別になる時には信頼関係を築くよう努めている。子ども同士のトラブルが生じた場合は、お互いの話をよく聞き、子どもの気持ちを受け止めた上で子ども同士で関係を修復できるよう支援している。地域の様々な行事の参加や同法人のお祭りなどで多くの人達との触れ合いを通して、他人への心遣いが出来るような支援を期待する。

(4) 被措置児童等虐待対応

①	A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	c	A5
	<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。	○	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管理政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。	○	

【コメント】

「就業規則」に基づき虐待行為の禁止を徹底し、支援している。万が一虐待行為があった場合は、厳正な処分を行う事としている。日常の中で、こうした事例を発見したり、情報を素早くキャッチできる仕組みづくりを整備されたい。

②	A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b	A6
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつけられている。	○	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。	○	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	○	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。	○	

【コメント】

日々の支援では気になる対応があれば職員間で注意を促したり、ヒヤリハット事例を基に職員間で対応方法を共有して、不適切なかかわりの防止に努めている。子どもが自分自身を守るための学習の機会として、CAP（子どもへの暴力防止プログラム）を実施している。今後は被措置児童等虐待防止ガイドラインの周知徹底を図り、日頃から不適切な行為の防止に努められたい。

③	A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b	A7
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。	○	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。		

【コメント】

被措置児童虐待対応マニュアルが整備されており、会議等でも話し合い職員の意識向上に向けた取り組みを行っている。職員は十分理解した上で、養育・支援に当たっているが子どもへの周知が十分ではないので、周知する取り組みに期待したい。

(5) 思想や信教の自由の保障

①	A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	a	A8
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設において子どもの思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。		
	<input type="checkbox"/> 保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。	○	

【コメント】

施設長はじめ全ての職員は、子どもの思想や信教の自由について尊重しており、施設において信仰の自由を保障し、特定の信教や思想を押し付けることはしていない。現在、特定の信教活動をしている子どもはいない。

(6) こどもの意向や主体性への配慮

①	A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されるに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	b	A9
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。	○	

【コメント】

入所の際は施設見学等を行い、不安の解消、軽減に配慮するとともに、ユニットの職員や子どもたちも温かく迎え入れるための準備を心掛けている。入所後も出来るだけ関わりを多くして、子どもの状況を把握し不安の解消に努めている。今後は子どもの不安解消に対する具体的な取り組みや対応を職員間で共有され実践されることを期待する。

②	A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	

A10

## 【コメント】

子どもの意見や要望は、日々の支援を通して聞き取るように努めている。「園長への手紙」や「食事のリクエスト」を書く用紙を設置して、要望があればメニューに取り入れている。個別面談や年齢別の自治会等で積極的に意見や要望を言いやすい環境を整えている。その中で出た実施困難な事項については、職員間で話し合い結果をフィードバックされることを期待する。

## (7) 主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜変更している。	○
	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	○

A11

## 【コメント】

職員は子どもたちが施設やユニットの決まりごとから大きく外れないで、他に迷惑をかけない限りは子どもが自分で考えて生活できるよう配慮している。ホームでの活動や地域での行事に楽しみながら参加できるよう支援している。調査の折に、ピアノの発表会を間近かにして楽しみにしている子どもの声が聞けた。

②	A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。	
	<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。	○

A12

## 【コメント】

小遣いの額は年齢に応じて施設で決められており、小さい子どもは職員と一緒に買物に出かけたり、小遣い帳と一緒に記録しているが、高学年は自分で小遣い帳を付け、金銭管理が出来るよう支援している。今後は、自立を控えた子どもに生活費を渡して自活訓練を行うプログラムを作成し、シュミレーションで学ぶ機会を設けられることを期待する。

(8) 継続性とアフターケア

①	A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	b	A13
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。	○	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。		
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。	○	

【コメント】

家庭支援専門相談員が中心となり、担当職員と保護者、児童相談所と連携して、子どもの意思や保護者の意向を十分に尊重しながら、退所後の生活を検討している。家庭復帰後は、子どもや保護者から相談を受けた時には丁寧に対応して状況の把握に努め、児童相談所と連携して最善策を考えている。事例の経過については、退所支援記録にも残している。今後は園から定期的に子どもや保護者、関係機関と連絡を取り、現状の把握をされるとなおよい。

②	A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	b	A14
	<input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。		

【コメント】

高校中退の子どもの措置継続をしており、職員と一緒にハローワーク等へ行き就職先を探すなど自立に向けた支援に努めている。18歳で自立生活が不安定な場合は、独自のグリーンホーム（退所児童支援室）を利用するなど、自立への道筋を付けることを視野に入れた取り組みに期待したい。

③	A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b	A15
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口（担当者）があり、支援をしていくことを伝えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○	
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。		

【コメント】

職員は、子どもの退所後の社会生活の心配事について、納得できるまで何度も話し合いをしたり相談に応じるなど、少しでも安心できるような対応に努めている。退所後も何時でも相談できる体制があり、月数回相談されるケースもある。卒園生がふらっと来訪する時や園建て替え時の機会等に卒園生を招待するなど、卒園生と触れ合う機会を設けている。しかし、卒園生の会いたい職員が、他施設に異動で会えない場合があるので、定期的に「卒園生の集い」など開催され、異動した職員や園の子どもたちとも触れ合える場を作られることを望む。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	

A16

【コメント】

担当職員と月2回、個別面談をする時間を作っている。その他にも子どもの部屋で相談されることもあり、職員は子どもが表出する感情や言動の把握に努め、子どもと共に課題に向き合う努力はしている。しかし、今回の第三者評価の児童アンケートから「職員から大切にされていない」や自分の気持ちや考えを話せる職員がいるか？の回答で「はい」が44%程であることをかんがみて、一度職員間で話し合い、子どもたちの考えを把握される事を期待する。

②	A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	
	<input type="checkbox"/> 高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めるとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○

A17

【コメント】

職員は小学生から自分の事は自分でできるように伝え、身の整理整頓、身だしなみ等、規則正しい生活が送れるように見守ったり、働きかける支援に努めている。幼児は職員と一緒に布団を並べ、寝付くまで添い寝するなど、安心感の醸成に配慮している。今後も、子どもの声に耳を傾ける姿勢を大切に、子どもとの関わりの継続を期待する。

③	A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b	A18
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。		
	<input type="checkbox"/> つまづきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に把握、援助できるように、職員の配置に配慮している。		

【コメント】

小学生から日常できる居室の掃除、洗濯物の整理、食事の盛り付け、片付け等自分の事は自分で見守りや働きかけをしている。また、土曜日のおやつは自分で好きな物を購入したり、クラブ活動などは子どもが自ら判断し行動するなど主体性を尊重している。朝夕の子どもの忙しい時間帯に職員の配置を手厚くするなど、体制の工夫や改善を検討されたい。

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b	A19
	<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発育状況に応じたプログラムの下、実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができている。		
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。	○	

【コメント】

ユニット毎のリビングには発達段階に応じた本が置かれ、何時でも読むことができる。屋内の多目的ホールではボール遊びや卓球ができ、屋外で遊べる自転車など、子どもたちが遊べる遊具が用意されている。小・中学生の学習指導ボランティアや子どもと一緒に遊ぶボランティアの受け入れも行っている。またピアノを習っている子もいて、年1回発表会がある。

⑤	A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a	A20
	<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気の中で秩序ある生活が営まれている。	○	
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上で必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。	○	

【コメント】

園で決めたルールを守ることを子どもたちに説明し、基本的な生活習慣が身につくように支援しており、月1回のユニット会議、低学年の部会など、話し合う場を設けている。職員と一緒に銀行にでかけて現金の引き出し方を学んだり、「子ども会」「招待行事」などで行動を共にする時に、社会常識や社会規範を習得できるように努めている。

(2) 食生活

①	A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a	A21
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。	○	
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○	
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	○	
	<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎えての食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	○	

【コメント】

夕食の時間は概ね6時頃からとなっており、厨房から届いた食事を各ユニット毎で職員も一緒に食べている。部活やアルバイトで帰りが遅くなる子どもたちは、自分で温めて「時間外喫食表」に温めた時間を記入している。年数回子どもに食べたい物を聞いて外食に行く機会を設けている。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 少数の子どもの対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も配慮されるよう、献立について振り返る機会がある。	○

A22

## 【コメント】

年2回嗜好調査が行われ、その結果は子どもや職員に伝えられるとともに、要望が多かった献立を取り入れるなど、できるだけ子どもの意向に添った形で提供している。食物アレルギーの子どもについては、栄養士と医師、職員が連携して、アレルギー除去食の提供が行われ、体調不良時には、代替え食を提供している。厨房前の通路には、いつでも食べたい献立希望を書ける用紙が置いてあるが、子どもたちが通ることが少ない場所なので、各ユニットなど、分かりやすい所へ設置するとさらに良い。

③	A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	a
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつへの摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。	○
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	○

A23

## 【コメント】

年5回ほど調理実習が企画され、子どもたちがメニューを考えて食材の買い出しから調理を行い、調理技術の習得に努めている。各ユニットの冷蔵庫には献立表が掲示されており、学校の給食とメニューが重ならないように配慮し、季節の料理を取り入れている。献立表には、料理の由来などのコメントが書かれており、食文化が継承できるような配慮もされている。

(3) 衣生活

①	A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a	A24
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体に合ったものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

衣服費は学年によって予算が決まっているが、年2回、好きな服を選んで購入する機会がある。季節に合った清潔な衣服を着用しており、中学生以上は衣服の洗濯を自分で行うように支援している。

(4) 住生活

①	A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	b	A25
	<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。		
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

平成28年4月から新築の建物に引っ越して、小規模グループケアを開始している。施設全体が明るく、掃除がゆきとどき清潔である。各ユニットのリビングには、子どもたち個々の給食セットなど、学校で必要な小物がはいる個別のボックスが設置されて整理されており、また、年齢に応じた本が置かれ、何時でも読むことができる。各部屋にはベッド、棚など設置されており、整理整頓に差があるものの、それぞれが工夫して使用されている。トイレ、浴室、洗面所など、共有部分も合わせて清潔保持に努めるよう、日常的に根気よく助言することを期待する。

②	A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a	A26
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

ユニットは一部のみ2人部屋となっているが、他は個室対応となっている。居室は自分の好きなステッカーを張るなど個性的な部屋となっている。幼児室は職員の目の届きやすい事務所の隣で、夜は子どもが寝付くまで、背中をトントンたたいたり、添い寝をして安心感が感じられるように努めている。

(5) 健康と安全

①	A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身に付くよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。	
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。	

A27

【コメント】

日頃から職員が手洗い、うがい等衛生面について声をかけ、自己管理が出来るように支援しているが、年齢が高くなると、手抜きする子どももいる。散髪等は定期的に理美容にでかけ、身だしなみに配慮している。交通ルールについては、職員と外出の際に危険な箇所などの助言をしている。感染症等に配慮した手洗いやうがいの徹底や、交通ルールをみんなて話し合い、地域の危険箇所の確認をされる事を望む。

②	A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

A28

【コメント】

子どもたちの健康状態に配慮して毎朝検温を行い、個別の健康管理表に記録している。毎年健康診断とインフルエンザの予防接種を実施し、月1回医師による医療相談の機会を設けて、早期発見、早期治療に努めている。日頃から医療機関と連携しており、急な発熱などの際も囁託医が診察している。

(6) 性に関する教育

①	A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

A29

【コメント】

職員は園内・外のCAP研修を受講したり外部の講師を招き研修を受け、子どもの発達に応じたCAP研修に基づいて子ども部会や自治会で伝えている。性教育プログラムの幼児版、小学生版中高生版など発達に応じたカリキュラムを用意され性教育の取り組みに期待する。

(7) 自己領域の確保

①	A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とるようにしている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。	○

A30

【コメント】

各ユニットのリビングに個別のケース箱や学校の給食セットなど、小物を入れる引き出しが用意されている。日常的に使用するタオル、コップ等子どもの好みを尊重した個人所有としている。

②	A31 成長の記録(アルバム等)が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。	○
	<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録(アルバム等)を整理している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録(アルバム等)が手渡されている。	○

A31

【コメント】

子ども一人ひとりの成長の記録は、ホーム行事、招待行事、誕生日会などのおりに写真を撮り、アルバムとして残している。ユニット毎でアルバムの保管場所は異なるが、共有スペース又は自分の部屋に置いてあり、何時でも見れるようになっている。退所時にはアルバムを手渡している。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもを安全を図る配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

A32

【コメント】

問題行動が発覚した場合は緊急時対応マニュアルに添って対応し、できるだけ子どもが落ち着いてから気持ちを聞くようにしている。問題行動の背景や原因について職員会議やケース会議で検討し、必要に応じて児童相談所や専門医療機関と連携して対応している。また、職員が一人で問題を抱え込まないように、月1回職員のセルフチェックを実施し、必要に応じて上司と相談できる体制を整備して、職員のストレスの軽減にも配慮している。

②	A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a	A33
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○	

【コメント】

施設内虐待防止委員会を設置して施設内研修を行い、情報の共有と統一した支援の充実を目指している。いじめ防止の取り組みとして子ども同士のケンカの場合、対応マニュアルに添って職員が個別に話を聞き、その後職員間で話し合い、問題解決に取り組んでいる。必要に応じて、子どもをクールダウン室に案内し、落ち着いてから話を聞き取る場合もある。

③	A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	a	A34
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。	○	
	<input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にならないようにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされている。	○	

【コメント】

保護者による強引な引き取りの可能性がある場合は、児童相談所と連携して対応を協議している。職員間で情報の共有を図るとともに、電話や訪問された場合の対応を確認し、統一した対応ができるように周知を図って、子どもの安全確保に努めている。

(9) 心理的ケア

①	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b	A35
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。		
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。		
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。		
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。	○	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○	

【コメント】

職員会議の中で心理的な支援を必要と思われる子どもや、児童相談所から心理的ケアが必要と判断された子どもには、心理士により、子どもの状況に応じて時間や回数を決め、セラピーを実施している。今後は、自立支援計画にも心理的支援も追加され、職員と心理士が連携して、統一した支援体制の強化を図られることを期待する。また、心理的支援の取り組みが職員の支援技術の向上になるように、心理支援の研修などの取り組みにも期待したい。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

①	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b	A36
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。		
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○	
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○	

【コメント】

職員は、小学生が帰宅したら連絡帳を確認し、宿題に取りかかるよう支援したり、翌日の忘れ物がないように気を配っている。小中学生は近隣の塾を活用したり、学習ボランティアや職員が学習指導をして、子どもに応じた基礎学力の向上の支援に努めている。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b	A37
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。		
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	○	
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○	
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。	○	

【コメント】

進路検討委員会では、中学生になると進路の話し合いを始め、中学3年生には具体的な進路を決定して、自立支援計画に進路についての支援方法を載せ、子どもの最善の利益となるような支援に努めている。年2回卒業生を招いて、将来についてや進路の自己決定などの体験談を依頼し、園の子どもたちが進路を考える機会を設けている。

③	A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b	A38
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。		
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。		
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○	

【コメント】

高校生にはアルバイトを推奨し、社会の仕組みやルールを学ぶ機会としている。アルバイト代は貯金や携帯電話利用料や自動車免許の取得の費用に充てている。アルバイト先は本人や職員が見つけているが、今後も、職場体験となる実習先やアルバイト先の開拓をされ、社会経験の良い機会となるよう期待する。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長とともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

A39

【コメント】

家庭支援専門相談員が中心となり、児童相談所と連携して、保護者からの相談に対する援助や子どもの日頃の様子、学校の行事などの連絡を通して、保護者との関係を築いている。保護者との面会や一時帰宅後は子どもの様子を確認し、適切に対応している。保護者には入園時「入園のしおり」を渡して園での支援方法を説明し、安心してもらえるように努めている。

(12) 親子関係の再構築支援

①	A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

A40

【コメント】

家庭支援専門員は児童相談所と連携して、子どもや家族の意向を確認し、支援の方法を決定している。家族支援の取り組みは、職員が家庭訪問や子どもの一時帰宅などを実施し、親子関係の再構築に向けた取り組みを行っている。施設としては、子どものメンタルケアと併せて家庭での養育機能の不足する点を補い、家族と協力しながら支援をすすめている。

(13) スーパービジョン体制

①	A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。	○
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。	○
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 園が定める基幹的職員を配置している。	○

A41

【コメント】

各ユニットのリーダーがスーパーバイザーの役目を担っており、SBI研修を受講して、支援の質の向上に努めている。スーパーバイザーができる職員が配置がされているので、定期的にスーパービジョンが行える体制を整備され、職員が悩みなど相談できる環境の設定や援助技術の向上に努められたい。